

サシガメ科

キイロサシガメ *Sirthenea flavipes*

オオトビサシガメ *Isundus obscurus*



緊急度：★★

危険度：低

等

プロフィール



キイロサシガメ

【特徴】体長 18～20 mm。体色は黄褐色で、暗褐色の斑紋がある。頭は円錐状に長く突き出し、眼は頭の根本側にある。



オオトビサシガメ

【特徴】体長 20～27 mmで、サシガメの仲間では大型種。体色は全体が茶褐色。体に沿って生える毛と長毛がある。

分 布：本州以南。

たべもの：キイロサシガメ：

昆虫に口吻を刺して吸汁する。

オオトビサシガメ：

毛虫等の昆虫やクモ類に口吻を刺して吸汁する。

す み か：キイロサシガメ：

水田、休耕田等の湿った場所の地表。

オオトビサシガメ：

低山から山地の森林。樹上や建物の壁に集まって越冬する。

サシガメ科の仲間の種



ヨコヅナサシガメ

【特徴】体長 16～24 mm。腹部の横の張り出した部分は白黒の縞模様で、各脚の基の部分は鮮やかな赤色。サクラ、エノキ、ケヤキ等の木の幹でよく見られ、幼虫は樹洞や幹の凹みに集合して越冬する。他の昆虫に口吻を刺して吸汁する。中国～東南アジア原産の外来種で、国内では九州で1930年代から、関東で1990年代から確認されている。

被害

※図はヨコソナサシガメの生活史を示したもの

| 月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|--------|-------|---|--------|---|----|---|---|---|---|-------|----|----|
| 生活史 | 幼虫で越冬 | | 羽化 | | 成虫 | | | | | 幼虫で越冬 | | |
| 被害発生時期 | | | ←————→ | | | | | | | | | |

被害発生時期の説明：成虫が活動する時期に被害が発生する可能性がある。

被害：刺傷。刺されると痛みを感じ、かゆみが数週間続くことがある。

事例：都市公園での被害例は特に知られていないが、刺傷被害が発生している可能性はある。

予防編 — 不用意に触らない

〈利用者の対応〉

- サシガメを見つけても触らない。サシガメの餌は昆虫類等であり、むやみにつかんだりしなければ刺されることはない。
- 樹洞、構造物の隙間等に不用意に手を入れない。
- 公園内の地表や樹木、構造物等に触れたり、腰を下ろす場合は、サシガメがいないか確認する。

〈管理者の対応〉

- 公園内又は周辺において、サシガメが好む環境(湿った場所、樹林等)がどこにあるか確認しておく。
- 目視で生息状況の確認を行う。
- 利用者がサシガメに関する適切な知識を持つことができるよう、ポスター等により周知を図る。

低減編 — かゆみが続くときは塗り薬を塗る

〈刺されたときの対処・応急手当等〉

- 痛みは一時的ですぐに治まるが、かゆみが長く続くようであれば、抗ヒスタミン成分含有のステロイド外用薬を塗る。

〈管理者の対応〉

- 被害状況を把握するとともに、利用者がサシガメに関する適切な知識を持つことができるよう、ポスター等により周知を図る。

【参考情報】吸血性サシガメとシャーガス病

シャーガス病(アメリカトリパノソーマ病)は、クルーズトリパノソーマという寄生虫が病原で、慢性化すると心臓、消化器、神経等に重篤な疾患を起こす感染症です。現在、南米を中心に推定約 600 万～700 万人が感染し、アメリカ大陸以外にも広がりつつあります。

この寄生虫は、主に吸血性のサシガメの糞尿に含まれます。夜間に吸血し、その場で排泄するため、寄生虫が傷口や粘膜から体内に侵入することで感染します。

世界で約 6500 種いるサシガメ科の種のうち、ヒトを含む哺乳類から吸血する種は 90 種ほどといわれています。日本には吸血性のサシガメは生息せず、**国内でシャーガス病は発生していません**。ただし、中南米出身、母親が中南米出身、中南米に通算 4 週間以上滞在した人が無症候性キャリアである可能性を否定できないため、日本赤十字社は献血時に申告するよう呼びかけています。